

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)	氏名	WARUNYA WUNNASRI												
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当														
<p>論 文 題 目</p> <p>VALIDITY INVESTIGATION OF RECONSTRUCTIONAL CONCEPT MAP AND ITS COLLABORATIVE USE FOR SHARING UNDERSTANDING</p> <p>(再構成型概念マップの妥当性の検証と理解共有のための協調的利用に関する研究)</p>															
<p>論文審査担当者</p> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:15%;">主 査</td> <td style="width:15%;">教 授</td> <td style="width:40%;">平嶋 宗</td> <td style="width:10%;">印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>金田 和文</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>林 雄介</td> <td>印</td> </tr> </table>				主 査	教 授	平嶋 宗	印	審査委員	教 授	金田 和文	印	審査委員	准教授	林 雄介	印
主 査	教 授	平嶋 宗	印												
審査委員	教 授	金田 和文	印												
審査委員	准教授	林 雄介	印												
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本研究は、再構成型概念マップの妥当性評価と、理解共有のための協調的利用の有効性に関するものである。妥当性の評価は、再構成型概念マップの自動診断結果を、手動による診断結果と比較することで行った。協調的利用の有効性は、再構成型概念マップを用いたペアにおいて行われる協調的議論と、通常概念マップを用いたペアとで行われる協調的議論を比較分析することで行った。</p> <p>第1章では、再構成概念マップの妥当性を検証する必要性および理解共有のための協調的利用の可能性について述べている。</p> <p>第2章では、本研究の背景として、概念マップおよび学習の文脈において試みられてきた様々な利用法、概念マップの手動による評価法、および本研究で対象とする再構成型概念マップの概要について述べている。</p> <p>第3章では、再構成型概念マップの妥当性を検証するための手順として、被験者、利用した概念マップ、および利用した手動評価法について述べた後、評価結果として、再構成型概念マップの自動診断の結果が、利用した手動評価結果と有意で高い相関があることが確認できたことを報告している。</p> <p>第4章では、再構成型概念マップの理解共有のための協調的利用の有効性を実験的に検証しており、まず、評価のための議論の質的分類について述べた上で、通常概念マップとの比較実験のための、被験者群の設定のための予備実験とその結果としての群設定と実験手順について述べている。さらに、議論の質的分析の結果、再構成型概念マップを用いた群において、質的優位が示されたことを報告している。また、再構成型概念マップを用いた群においてペアの両者において作成した概念マップの一致度が統計的に有意に高いこと、および、ペアにおいて相手の概念マップの予測においても再構成型概念マップを用いた群の被験者の方が、統計的に有意に高い一致度を示したことが報告されている。さらに、被験者に対するアンケート調査により、再構成型概念マップ群の被験者が、その活動が新規なものであるものの、議論をするうえで役立つ手段であるとの回答が多かったことが示されている。</p> <p>第5章では、これらの一連の研究成果をまとめ、再構成型概念マップによる自動診断の妥当性と、理解共有のための協調的利用の有効性を示せたと結論付けている。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士(工学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>															

備考：審査の要旨は、1,500字以内とする。